

平成 24 年 7 月 1 日

日本総合病院精神医学会 会員各位

日本総合病院精神医学会

理事長 黒木 宣夫

東日本大震災精神科医派遣プロジェクト
～第 2 次計画 福島県浜通り地域（沿岸部）支援～
磐城済世会 松村総合病院 医師派遣への協力者募集（追加）

謹啓 猛暑の候、学会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のことお慶び申し上げます。平素は学会活動にご協力頂き、厚く御礼申し上げます。

さて、表題のプロジェクトですが、学会員の皆様のご協力を頂き昨夏よりこれまで無事継続することができ、被災者の方々の診察や、被災された医療者の支援を行っております。被災地支援の状況といたしましては、震災後 1 年以上が経過したこともあり、様々な支援プロジェクトが終了しつつあります。しかしながら、被災地の状況は原発事故の影響もあり、質的・物的とも復興とは言い難く、さらに継続した支援が必要と思われれます。とりわけ私たちの専門分野であります、精神医療分野においては、被災された方々、原発事故で避難を余儀なくされている方々への医療支援が必要と思われれます。

本プロジェクトの趣旨は、中長期的に被災者及び被災した医療者を支援することであり、現在継続されている支援はその途上にあると言えます。本プロジェクトがその使命を全うするためには、被災者の方々が復興を認識し、かつ、被災地の医療者の方々が自分たちの力で地域の精神保健医療福祉を担うことができるまで支援を継続することが必要と思われれます。また、本プロジェクトの対象となっている福島県いわき市は原発事故により避難されている方々も多く暮らしておられるため、支援は震災復興のみを区切りと考えることも難しく、さらなる支援が求められています。

つきましては、本プロジェクトを被災地のニーズに合わせて変更しつつ、さらに継続するために、ご賛同いただいた学会員の皆様の中から、直接現地の支援に入って頂ける協力者を追加で募集したいと思います。ご協力頂ける場合には事務局までお申し出ください。お申し出いただける場合の連絡方法は E-mail、電話のどちらかでもお願い致します。お申し出頂いた協力候補者が多数いらっしゃる場合には、事務局にて調整させていただきます。プロジェクトへのご質問なども引き続き事務局でお受けしますのでお問い合わせください。

謹白

東日本大震災精神科医派遣プロジェクト
～第2次計画 福島県浜通り地域（沿岸部）支援～
磐城済世会松村総合病院医師派遣への協力者募集（追加）

1. 支援先

福島県いわき市 「磐城済世会松村総合病院」

2. 交通手段

JR特急 上野からいわき 片道2時間30分

高速バス 東京駅からいわき 片道3時間

いわき駅から徒歩10分

3. 外来診療支援曜日、時間

月・火・木曜日 午前8時30分～14時

（前日夜に宿泊し、翌日外来診療）

4. 身分

「磐城済世会松村総合病院非常勤医(給与あり)」

5. 交通費、宿泊費

地域医療再生基金から一部補助を得て、磐城済世会松村総合病院が負担

応募者

氏名

所属

連絡方法

診療可能日（最低毎月1回以上）

①毎週（月・火・木）曜日

②隔週（第 週）（第 週）の（月・火・木）曜日

③第（ ）週の（月・火・木）曜日

④その他（可能な日程）

平成 24 年 7 月 1 日
日本精神神経学会東日本大震災対策本部
連携組織：日本総合病院精神医学会

東日本大震災精神科医派遣プロジェクト
～第 2 次計画 福島県浜通り地域(沿岸部)支援～

I 趣旨

東日本大震災から 1 年以上が経過しましたが、被災地域の復興は遅れ、原発事故の長期化の影響と併せ被災地域で生活する住民の方々は多くの心的外傷体験・精神的疲労を抱えています。被災地に関する心のケアは、被災当初は数多く行われてきましたが、現在では、多くの支援団体が支援を終了しています。しかし、今回の大震災や福島第一原子力発電所事故からの復興は 1 年程度で成るものではなく、被災地域で生活する人々に対してはさらに長期的・継続的な支援が必要とされております。

被災地となった東北地方とりわけ福島県は、広域であり過疎地域も多く、さらに原発事故による避難などで精神科受診がより困難となっています。さらに、最近では、原発事故による避難を苦にした自死なども起き社会問題化しています。震災及び原発事故による新規精神疾患は後を絶たない状況ですが、それらへの治療は、前述の状況により困難な状況であると思われます。加えて、東北地方の地域特性として、精神科受診に対するスティグマが残っているという点があり、患者の精神科受診を困難にし、十分な精神科医療が届かない背景になっているようです。

このような状況から本学会では、昨夏より開始した本プロジェクトを、継続する必要があると判断し、これまでよりも診察日候補を増やして支援を継続したいと考えます。

II 目的

震災・原発事故からの復興途中地域において精神科診療活動を行う

III 支援方法

福島県内で支援が求められる総合病院の外来においてコンサルテーションリエゾン活動を行い、被災体験による精神疾患の発見・治療を行うことで、被災住民の精神的支援と被災地精神医療従事者の支援を行う。

IV 支援内容

1. 業務

1) 外来診察

午前中(8 時 30 分～14 時)は支援先の外来診察室において通常外来診療を行う。また、

支援先他診療科、地域からコンサルテーションも受け付ける。

2.支援期間

1)期間

平成 24 年 7 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日のうち、毎週月・火・木曜日(祝日の場合は休止する)

2)時間

8 時 30 分～14 時(支援先と相談の上、変更可)

V 支援先

1.支援先

1)施設名

財団法人 磐城済世会 松村総合病院

2)所在地

福島県いわき市平字小太郎町 1-1

3)病床数・標榜診療科

一般病床 206 床 2 次救急対応 所属医師 20 数名

内科、消化器科、呼吸器科、循環器科、神経内科、小児科、外科、皮膚科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リエゾン科、リハビリテーション科、形成外科、麻酔科、放射線科

4)派遣先精神科診療の概要

松村総合病院リエゾン科で診療。精神科常勤医なし。同一法人の舞子浜病院(精神科医 4 名勤務一津波で半壊し多くの入院患者が他病院に転院。通院患者も 6 月中旬まで松村総合病院精神科で診療)と兼務で午前中外来診察あり(月・火曜日 2 診、木～土曜日 1 診)。外来患者数 50～100 名/日程度。外来には常勤看護師 2 名配置。

初診は予約制であるが、救急経由の初診などには柔軟に対応している。

2.支援先選定の理由

1)支援地域の概要

いわき市は福島県の東南端に位置し、人口約 34 万人、1231.35km²の中に海岸部と山間部を含む広大な市である。いわき市には 200 床以上の総合病院が 4 カ所存在するが、そのうち精神科を標榜する総合病院は存在せず(心療内科を標榜し常勤医が 1 名勤務する病院は存在する)、震災前から総合病院の精神医療における過疎地域であった。精神医療は単科精神病院が担ってきた。

2)震災による精神医療福祉に関する影響

福島県いわき市は、原発事故の避難区域から近く、多くの住民が避難している。原発事故からの避難生活を余儀なくされている方々の精神的苦痛は募り、避難生活を苦しめた自死は社会問題にもなっている。

3)支援先総合病院選定理由

いわき市の沿岸部に近い場所に存在し、震災及び原発事故の影響が長期化していること、精神科診療のニーズが増えることが予想されること、リエゾン科を有しリエゾン精神医療の診療実績があること、身体的合併症を有する患者が比較的多いこと、福島県浜通り地区の精神科救急輪番ネットワークの幹事病院であることにより選定した

VI派遣精神科医と関係団体

1.派遣精神科医の身分

1)身分保障

原則支援先における非常勤職員とする。ただし、所属組織の方針などを加味する必要がある場合は事務局に相談する。また、所属組織と協議の際、本プロジェクトによる派遣精神科医派遣に関する公文書が必要な場合は磐城済世会松村総合病院が対応する。本学会は、派遣身分、労働災害などについての保証は行わない。

2)報酬及び支度金等

派遣先医療機関の支弁。

2.日本総合病院精神医学会

1)コーディネート

本学会事務局は、派遣先である松村総合病院と支援内容・派遣日程の調整、診察必要物品及び診察衣などの準備依頼を行う。また、派遣精神科医候補と連絡を取り、派遣先のニーズ(日程など)と調整し、派遣する派遣精神科医を決定する。その上で派遣精神科医に対して支援内容や派遣期間を通知する。

2)交通費の支給

派遣精神科医に対しては、交通費を支給する。交通費は派遣精神科医住居地から支援先までの往復公共交通機関料金の実費を支給する。なお、交通費に関しては、地域医療再生基金からの一部補助を得て支給する。

3)宿泊

いわき市内ホテル又は舞子浜病院当直室を使用する。

VII派遣精神科医の募集

1.募集方法

本学会においては精神科医における医師の募集を行う。本案を理事会にて検討の上、学会員全員に簡易版派遣要旨をメール送信する。支援候補者は原則立候補制とする。

※毎月1回以上派遣可能な医師を募集する。

2.募集期間

平成24年7月1日～7月31日

※文中の本学会とは日本総合病院精神医学会を指します